

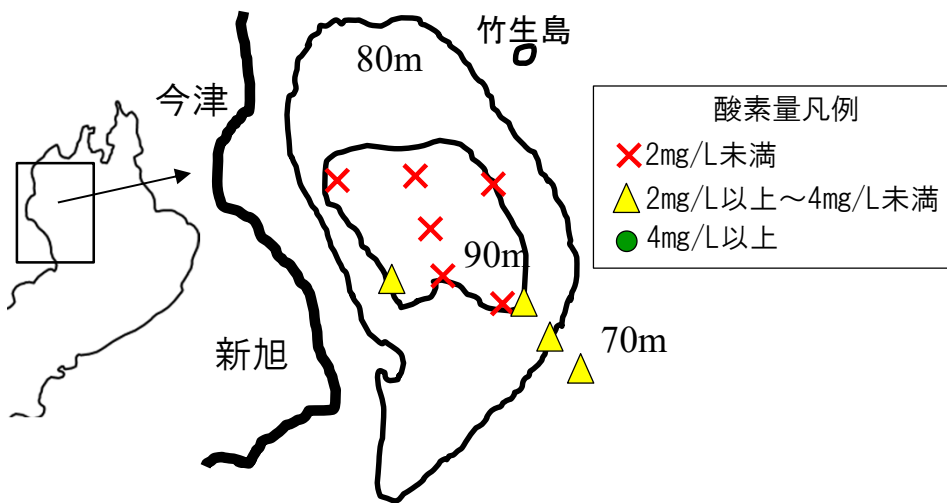
北湖沖合湖底の酸素量とスジエビ等の生息状況

滋賀県水産試験場

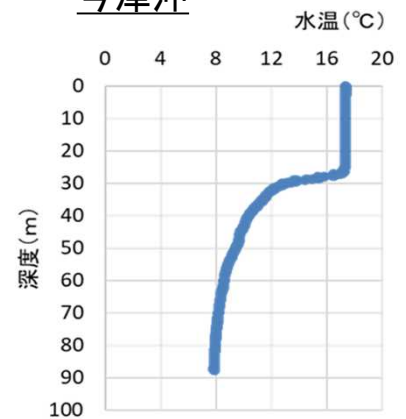
琵琶湖沖合の底層では、秋から冬にかけて酸素量が低下し、2mg/Lを下回るとスジエビなど魚介類の生存や分布に影響を与えることがあります。

そこで、水産試験場や琵琶湖環境科学研究センターが実施した酸素量やスジエビ等の生息状況に関する調査結果をお伝えしますので、操業の参考にして下さい。

○湖底等の酸素量(2023年11月15日時点)



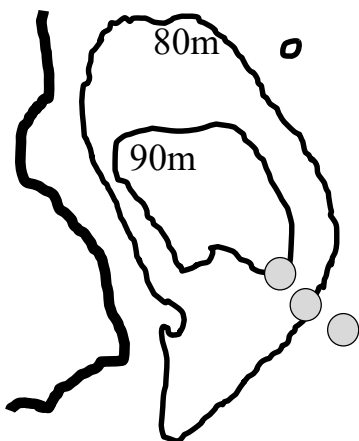
今津沖



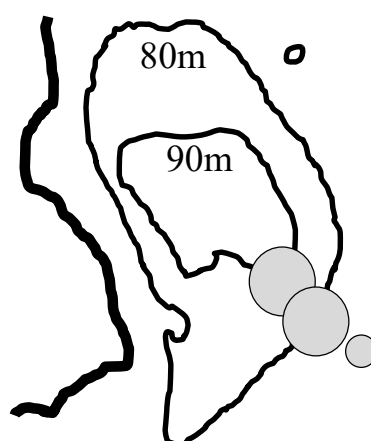
- ・湖底直上1mの酸素量は水深約90mの地点の多くで2mg/Lを下回りました。
- ・水温躍層は30m付近にあり、湖底水温は7.8℃でした。

○スジエビ等の生息状況(2023年11月15日時点)

スジエビ



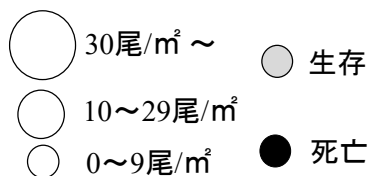
イサザ



- ・スジエビの死亡個体はなく、生存個体の密度は9尾/m²以下でした。

- ・イサザの死亡個体はなく、80mと90mでは生存個体の密度は1尾/m²以上でした。

スジエビ凡例



イサザ凡例

